

- | | | |
|----------------------------|--------|----------|
| 1. 事業細目：水産技術普及指導費 | 予算額 | 300千円 |
| 2. 研究名：水産生物の増養殖環境等に関する調査指導 | 予算区分 | 県単 |
| 3. 研究期間：46年度～ 年度 | 4. 担当者 | 前河、森田、吉原 |

5. 目的

水産増養殖業の水質等の環境に係わる調査、指導および異常斃死事故の原因究明調査、再発防止対策等の指導を行う。

6. 方法

- (1) 養殖用水としての水底質調査（一般水底質、有害物質等）
- (2) 水産生物の異常へい死事故発生調査（一般水底質、有害物質等）
- (3) その他水産生物の増養殖に関する指導（水質検査等）

7. 結果の概要

- (1) 養殖用水としての水底質調査
養殖用水の調査及び検査を実施し、結果を基に適切な指導を行なった。
 - ① 魚類養殖用水に関するもの
(アユ、コイ等) 22件
 - ② 貝類養殖用水に関するもの
(イケチョウ貝等) 41件
- (2) 水産生物の異常へい死事故発生調査
現場調査及び検査を実施し、結果を基に再発防止のための適切な指導を行なった。
 - ① 魚類へい死事故に関するもの
河川、内湖、養殖池
(アユ、コイ、エビ等) 3件
 - ② 貝類へい死事故に関するもの
内湖（イケチョウ貝） 1件
- (3) その他水産生物の増養殖に関する指導
調査及び検査ならびに参考文献を基に適切な指導を行なった。
 - ① 養殖用水の水質浄化方法について 14件
 - ② 水質検査及び解析について 3件
 - ③ その他養殖用水に関するもの 27件

8. 主要成果の具体的数値

検査結果の一例

調査年月日 昭和63年4月13日
 検査目的 アユの養殖用水としての適否検査
 試料の種類 地下水（今津町広川夏焼）5試料
 検査結果

生物試験

供試生物 コアユ(体長3.8~4.2cm、4.8~5.0cm、5.5~6.3cm)各1尾

項目	NO.1	NO.2	NO.3	NO.4	NO.5	確認日時	死の有無				
							NO.1	NO.2	NO.3	NO.4	NO.5
水色	清澄	清澄	清澄	清澄	清澄	4月13日 15:00	無	無	無	無	無
臭気	金気臭	金気臭	金気臭	金気臭	無臭	18:00	無	無	無	無	無
pH	6.14	6.18	6.07	6.08	6.42	4月14日 8:00	無	無	無	1尾死	無
RpH	7.34	7.44	7.47	7.66	7.98	12:00	無	無	無	無	無
EC $\mu S/cm$	82	91	100	102	160	18:00	無	無	無	無	無
COD mg/l	0.02	0.02	0.26	0.57	0.75	4月15日 8:00	無	無	無	1尾死	無
SS mg/l	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	12:00	無	無	無	無	無
NH ₄ -N mg/l	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	<0.01	18:30	1尾死	無	1尾死	無	無
NO ₂ -N mg/l	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.003	4月16日 8:00	無	無	無	無	無
NO ₃ -N mg/l	>1.00	>1.00	0.27	0.26	>1.00	13:00	無	無	無	無	無
PO ₄ -P mg/l	0.011	0.015	0.015	0.019	0.008	4月17日 12:30	無	無	無	無	無
Cd mg/l	9.2	10.5	10.7	10.8	13.1	17:00	無	無	無	無	無
T-Fe mg/l	0.30	0.13	0.33	1.73	0.02	4月18日 8:30	無	無	無	1尾死	無
S-Fe mg/l	0.28	0.09	0.31	1.56	<0.01	15:00	無	無	無	-	無
T-Mn mg/l	0.05	0.03	0.21	0.40	0.03						
S-Mn mg/l	0.04	0.02	0.20	0.39	0.03						
H ₂ S mg/l	ND	ND	ND	ND	ND						
深度・ 水温	m ℃	27 13.8	27 14.2	28 14.5	28 14.7	5~6 13.5					

9. 今後の問題点

環境汚染防止の為、各種汚染物質の発生源に対し、負荷削減のための対策を講じる必要がある。

10. 次年度の具体的計画

本年度同様の内容で実施する。